



トリビュート[®]
OD

除草剤

芝用



- 低温期処理、株化(分けつ)したスズメノカタビラにも安定した効果を発揮し、補正散布の手間、コストの削減に大きく貢献します。

殺草スペクトラム

科名	和名	薬量 (mℓ/m ²)		
		0.15	0.20	0.25
イネ科	メヒシバ	○	◎	●
	スズメノカタビラ	●	●	●
	エノコログサ	◎	●	●
	チガヤ	—	○	○
	シマスズメノヒエ	—	○	○
キク科	ヒメムカシヨモギ	○	○	◎
	ウラボシコグサ	○	○	◎
	マメカミツレ	△	○	○
	セイヨウタンポポ	△	○	○
	ナズナ	○	◎	◎
アブラナ科	タネツケバナ	◎	●	●

●(完全枯殺) ◎ (効果大) ○ (効果中) △ (効果不十分) × (効果なし)

スズメノカタビラに対する除草効果



試験場所：関東Aゴルフ場
対象雑草：スズメノカタビラ（出穂期）
プロット：1㎡
散布日：2011年3月9日
調査日：2011年4月22日



春期の大型スズメノカタビラを防除。

社内試験



日本芝に対する安全性

		処理日	調査日	薬量 (mℓ/m ²)	
				0.25	0.5
コウライシバ	茨城県	2009 4/13	2009 5/18	無	無
	埼玉県	2008 10/9	2008 10/25	無	微
	福岡県	2008 10/31	2008 11/15	無	無
ノシバ	埼玉県	2008 4/12	2008 8/16	無	無
	福島県	2008 10/16	2008 11/10	無	無
	福岡県	2008 10/31	2008 11/15	無	無

表示方法：薬害程度を大、中、小、微、無で表示

コウライシバおよびノシバに対して登録最高薬量（0.25mℓ/m²）では、いずれの散布時期においても薬害は見られませんが、登録最高薬量の2倍量では、10月散布により一時的な黄変が見られる例がありました。試験を解析しますと、散布日前後に最高気温が25℃以上まで上昇していることがわかりました。

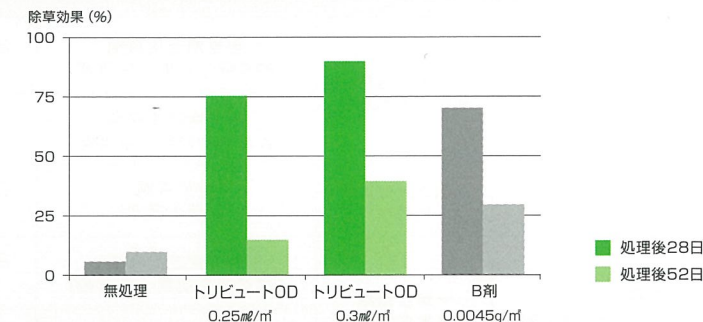


最高気温が25℃以上となる日（前後）の散布は一時的に日本芝に黄変などが生じる場合があります。

しつこいイネ科雑草を一掃。

シマスズメノヒエに対する効果（6月処理）

試験場所：関東Aゴルフ場
芝種：コウライシバ
対象雑草：シマスズメノヒエ（草丈：20cm、株直径10～15cm）
プロット：1㎡
処理日：2013年6月3日
散布水量：100mℓ/m²（サーファクタント2000倍加用）

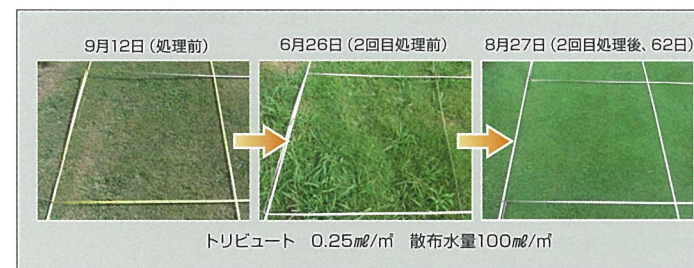


除草効果：100%（完全枯死）～0%（効果無し）

- トリビュートは対照B剤より高い効果が見られました。
- トリビュートは薬量0.3mℓ/m²で、より安定した効果が認められました。効果の持続期間は約1ヶ月でした。

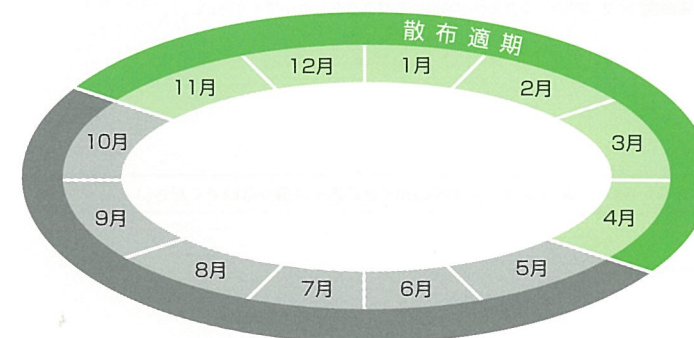
シマスズメノヒエに対する効果（秋から翌年の体系処理）

試験場所：関東Aゴルフ場
芝種：コウライシバ
プロット：1㎡
処理日：2013年9月12日、2014年6月26日
調査日：2014年6月26日（1回目処理後287日）、8月27日（2回目処理後62日）
散布水量：100mℓ/m²（サーファクタント2000倍加用）



- トリビュート単剤の体系処理（秋から翌年処理）で、高い効果が認められました。

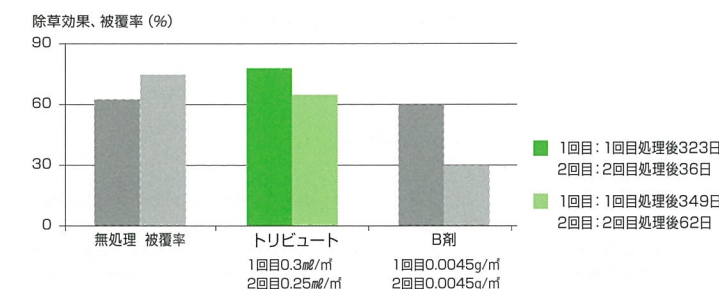
スズメノカタビラ防除における上手な使い方



- 葉齢が進んだ大型のスズメノカタビラには高薬量（0.2～0.25mℓ/m²）を推奨します。

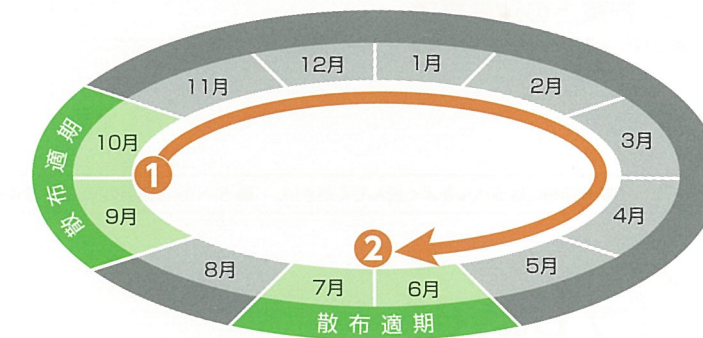
チガヤに対する効果（秋から翌年の体系処理）

試験場所：関東Aゴルフ場
芝種：コウライシバ
プロット：1㎡
処理日：2013年9月12日および2014年6月26日
調査日：2014年8月1日（1回目処理後323日、2回目処理後36日）、8月27日（1回目処理後349日、2回目処理後62日）
散布水量：100mℓ/m²（サーファクタント2000倍加用）



- トリビュート単剤の場合、秋から翌年6月の処理で、対照B剤より高い効果が見られました。

スズメノヒエ類、チガヤ防除における上手な使い方



- 秋+翌年初夏の処理で効果がアップします。
※一時的に日本芝に黄変などが生じる場合があります。



ベントグリーンから50ヤード以上離して使用してください。